

事故防止 103号
平成25年9月20日

関係団体 殿

公益財団法人日本医療機能評価機構
代表理事 理事長 井原 哲夫
(公印省略)

医療事故情報収集等事業 第34回報告書の送付について

平素より当機構の実施する事業にご理解、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

当機構においては、医療事故防止事業部において、医療事故情報収集等事業の円滑な実施に努めているところです。

この度、医療事故情報収集等事業 第34回報告書を取りまとめましたので送付申し上げます。ご査収くださいますようお願い申し上げます。また、各都道府県知事、各保健所設置市長、及び各特別区長宛にもお送りしておりますことを併せてご連絡いたします。

本報告書は、公表後、当機構のホームページ (<http://www.med-safe.jp/>) にも掲載しております。

なお、本報告書は9月25日(水)に公表の予定となっており、それまでの間は非公表の取り扱いとなります。公表までの間、本報告書の取り扱いにはくれぐれもご注意くださいようお願い申し上げます。

今後とも本事業の一層の推進に努めてまいりますので、何卒ご理解、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。



医療事故情報収集等事業 第34回報告書のご案内

1. 報告の現況

(1) 医療事故情報収集・分析・提供事業 (対象：平成25年4月～6月に報告された事例)

表1 報告件数及び報告医療機関数

		平成25年			合計
		4月	5月	6月	
報告義務対象医療機関	報告件数	216	200	245	661
	報告医療機関数	162			
参加登録申請医療機関	報告件数	42	24	21	87
	報告医療機関数	21			
報告義務対象医療機関数		275	275	273	-
参加登録申請医療機関数		674	677	680	-

第34回報告書51～54頁参照

表2 事故の概要

事故の概要	平成25年4月～6月	
	件数	%
薬剤	56	8.5
輸血	2	0.3
治療・処置	170	25.7
医療機器等	14	2.1
ドレーン、チューブ	41	6.2
検査	35	5.3
療養上の世話	239	36.2
その他	104	15.7
合計	661	100.0

第34回報告書60頁参照

(2) ヒヤリ・ハット事例収集・分析・提供事業 (対象：平成25年4月～6月に発生した事例)

- 1) 参加医療機関数 1,118 (事例情報報告医療機関数 610施設を含む)
- 2) 報告件数 (第34回報告書76～82頁参照)
 - ①発生件数情報報告件数：99,237件 (報告医療機関数 245施設)
 - ②事例情報報告件数：6,981件 (報告医療機関数 73施設)

2. 医療事故情報等分析作業の現況

従来「共有すべき医療事故情報」として取り上げた事例に、さらに分析を加え、「個別のテーマの検討状況」の項目で取り上げています。今回の個別のテーマは下記の通りです。

- | | |
|--|----------------------|
| (1) 血液浄化療法 (血液透析、血液透析濾過、血漿交換等) の医療機器に関連した医療事故 | 【第34回報告書 104～134頁参照】 |
| (2) 血液凝固阻止剤、抗血小板剤投与下 (開始、継続、中止、再開等) での観血的医療行為に関連した医療事故 | 【第34回報告書 135～163頁参照】 |
| (3) リツキシマブ製剤投与後のB型肝炎再活性化に関連した事例 | 【第34回報告書 164～173頁参照】 |
| (4) 胸腔穿刺や胸腔ドレーン挿入時に左右を取り違えた事例 | 【第34回報告書 174～187頁参照】 |

3. 再発・類似事例の発生状況 (第34回報告書188～210頁参照)

これまで個別テーマや「共有すべき医療事故情報」、「医療安全情報」として取り上げた内容の中から再発・類似事例が発生したものを取りまとめています。今回取り上げた再発・類似事例は下記の通りです。

- | | | |
|--|----------------|----------------------|
| (1) 「誤った患者への輸血」 | (医療安全情報No. 11) | 【第34回報告書 191～200頁参照】 |
| (2) 共有すべき医療事故情報「ベッドからベッドへの患者移動に関連した医療事故」 | (第13回報告書) | 【第34回報告書 201～210頁参照】 |

*詳細につきましては、本事業のホームページ (<http://www.med-safe.jp/>) をご覧ください。